

Message



みなさま、この度はこのような世情の中、ご来場いただき誠にありがとうございます！
N響入団に際して上京し早や10年。本日は縁あって練馬文化センターの舞台でリサイタルを開催させていただけること、大変光栄でございます。ピアニスト・新居由佳梨、ジャズ&ポップスシーンで活躍中の真砂陽地と共に、トランペット漬けのひとときをお届けいたします。最後までごゆっくりとお楽しみください！

菊本 和昭

Program Note

前半はトランペットのためのオリジナル作品、後半は編曲作品を集めてみました。演奏会のオープニングはロマン派時代に分類される超絶技巧曲をコルネット。邦人作曲家による現代の作品はCトランペットを用い、続いてBbトランペットと4種類のミュートを駆使するジャズの要素が濃いめの楽曲を。前半の最後はフリーゲルホルン…というわけで、前半は全曲それぞれ異なる種類の楽器の音色も併せてお楽しみいただける手筈になっております。
後半は真砂氏を交えてモーツァルトとガーシュウインの名曲を、それぞれ没後100年、生誕100年というアニヴァーサリー・イヤーを迎えるサン＝サーンスとピアソラの名曲をお届けいたします。

1* カール・ヘーネ スラヴ幻想曲

歴史あるベルリン宮廷歌劇場で首席トランペット奏者を務めていたヘーネ(独1871-1934)によって作曲されたこの楽曲は、彼の友人であるコルネットの名手、フランツ・ヴェルナーへ「友情を込めて」作曲されました。東欧的なムードを醸し出す導入部に始まり、カデンツァ～アダージョ～モデラート～マズルカ～ヴィヴァーチェと高揚感を増していきます。チャルダージュ的な要素を持つ超絶技巧をお楽しみください。今年2月にリリースした拙作CDアルバム「JOKER」に収録しています。

2* 西村 朗 《ヘイロウス(光輪)》トランペットとピアノのための

現在、東京音楽大学教授である西村朗(日1953-)によるこの作品は、一言で言い表すならば「神秘的」です。以下、作曲家自身による楽曲解説を引用させていただきます。
『イスタンブールの古いギリシャ正教寺院には、この聖都を占領したオスマン・トルコのイスラム教徒たちによって、半身を剥ぎ取られて光輪を削がれたキリストなどの聖像画が数多く残されている。それらの痛ましい聖像画の前に立ち、私はある種の感慨をおぼえ、この曲を書きかけとなった。トランペットが奏するのは、ピザンツ聖歌の一つ「恵深いあなたの霊によって、主よ、私を導いてください、アレルヤ」である。』 ※西村朗(1998) / 初演時のプログラム・ノートより出典
初演は1998年12月4日、第5回「四人組とその仲間たち」コンサート。2016年に国際トランペット協会カンファレンス(米・アナハイム)で演奏するなど、私にとっては演奏する機会が多い作品です。

3* ダニエル・シュニーダー トランペットとピアノのためのソナタ

実に10年ぶりに演奏するこの作品は、ニューヨークを拠点に活躍中のジャズ・サクソフォン奏者でもあるシュニーダー(瑞1961-)によって作曲されたものです。同郷のスイス人トランペット奏者、ジャン・フランソワ・ミッシェル氏の委嘱によって作曲されたのちに、1996年の国際トランペット協会作曲コンクールで優勝し、2003年に開催されたモリス・アンドレ国際コンクールの課題曲にもなりました。2011年にリリースした拙作CDアルバム「奏鳴曲」に収録しています。
※瑞…スイス

4* ジョン・ステイーヴンス 秋

「常に新しい曲を探すこと」を心がけながらソロ活動を行なっていますが、今回取り上げるのは、秋の美しい憂鬱を描いたこの作品。2014年までウィスコンシン大学マディソン音楽学校にて、チューバ&ユーフォニアム科教授を務めたステイーヴンス(米1951-)による作曲で、原曲は同氏による「金管五重奏のための四季」の第三曲にあたります。「季節の中で最も美しい秋。この音楽には憂鬱な雰囲気があり、冬の訪れを告げる。」とは作曲家本人の弁。フリーゲルホルンの音色と併せながら、秋のおとずれをお届けいたします。

*** 休憩 ***

5* ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (編曲: 桜間美帆) きらきら星変奏曲

誰もが耳にしたことがあるであろうこの名曲は、神童モーツァルト(奥1756-1791)22歳の時の楽曲です。もともとは、当時フランスで流行していた恋の歌「ああ、お母さん、あなたに申しませう」によるピアノ独奏のための12の変奏曲ですが、桜間美帆(日1986-)の編曲により、「クラシック系トランペット奏者」と「ジャズ系トランペット奏者」が互いに手を繋いだり、張り合ったりすることになりました。最終的にどんな休日を迎えることになるのでしょうか?? 本年5月に奈良県内で開催された「ムジークフェストなら2021」以来、5ヶ月ぶり2度目の演奏です。
※奥…オーストリア

6* カミーユ・サン＝サーンス (編曲: ミハイル・ナカリャコフ) 動物の謝肉祭より「白鳥」

ここで、今年2021年が没後100年となるサン＝サーンス(仏1835-1921)の楽曲を一曲。「動物学的大幻想曲」の副題を持ち、全14曲からなる組曲「動物の謝肉祭」の中から「白鳥」をお届けします。チェロ独奏曲としてとても有名なこの作品ですが、これをフリーゲルホルン&ピアノのために編曲したナカリャコフ氏は、国際的トランペットソリストであるセルゲイ・ナカリャコフの実父です。

7* アストル・ピアソラ (編曲: 井調昌樹) リベルタンゴ

次にお届けするのは生誕100年となる作曲家&バンドネオン奏者、ピアソラ(爾1921-1992)の名曲です。タンゴを元にクラシックとジャズの要素を融合させ、独自の演奏形態を生み出した彼が1974年に作曲したリベルタンゴ。曲名は「自由」+「タンゴ」の合成語であり、当時の祖国に嫌気がさして、彼がイタリアで演奏活動を行っていた時に作曲されました。トランペット&ピアノのために編曲してくれたのは、10年来の盟友である井調昌樹(日1980-)によるもの。編曲が完成したのは今年の9月14日。出来立てほやほやのリベルタンゴをお楽しみください。
※爾…アルゼンチン

8* ジョージ・ガーシュウイン (編曲: 桜間美帆) 「すべてを知っている場所からの便り」～ガーシュウイン・メロディーズ～

ジャズとクラシックの融合といえばガーシュウイン(米1898-1937)を外すわけにはいきません！モーツァルト作品に続いて、再び桜間美帆による編曲をお楽しみいただけます。もともとは、日本クラシック・サクソフォンのパイオニアである須川展也氏のために編曲されたものですが、クラシック・キクモトとジャズ・マサゴの2人がかりで、新居由佳梨とともにガーシュウインの名旋律の数々を皆様にお届けいたします！ 前述の「きらきら星変奏曲」同様、本年5月に開催された「ムジークフェストなら2021」以来、2度目の演奏です。